

心耕

2025(令和7)年

3月号

もぐらがあちこちで穴を掘っている。
おーいもぐらさん、土の中はどうだ。
暑くもねーし、寒くもねーし、丁度いい。もぐらは賢い。

今月の行事

十二日(水)はじめの一歩

午後一時(仏教の入内編)

春季彼岸会 全て午後一時

十九日(水)

若住弘

二十日(木)

法説
住弘

二十一日(金)

三島さん

草取り

九日(日)午前八時

写経会 十四日(金)午後一時

勉強会 壮年会五日午後四時

婦人会十三日午前十時

寺力五 三十日(日)昭和遊行

ヨガ 毎週火曜

午後一時

お朝事 毎朝六時半

お彼岸家庭参りは

四頁の地区割を参照の上、返信ハガキにて
お申し込み下さい。

委員希望の方は返信ハガキ備考へ

古畑任三郎の名シテ

拳銃自殺を図る犯人に

あなたはまだ死ぬべきではない。

死ぬより辛い日々が待つていてもか

また一からやり直せばいい

バクつになつたと叫んでいるんだ

とんでもない。いくらでもやり

直せます。よろしくですか、歳

を取ってやり直しあやづけないうて

誰が決めたんですか。

仏法を聞く事に早々も遅

もありません。来やす、行事

からご参加下さい。

名住弘

合葬墓進捗状況

法座案内

各種ご案内

・お朝事

毎朝六時半～七時、お勤めをしています。
日々のお参り、命日などにお参り下さい。

・草取り

正信偈の読み方と皆様のアンケートを
もとに三島さんが話します。初めての方
方もどうぞ！

十二日（水）午後一時～ はじめの一歩 第四回

春季彼岸会 十三時～十五時

太陽が真西に沈む春分の日。西は、阿弥陀如来が建立された極楽浄土を表します。阿弥陀如来のすくいを考える時間が彼岸会です。

・壮年会・婦人会主催の勉強会

壮年会 五日（水）十六時～ 四月は二日
婦人会 十二日（水）十時～

・おみがき

仏具をきれいにします。簡単な作業です。
是非 お手伝いください

十七日（月）十時～十二時 弁当付

・youtube 西光寺チャンネル更新

葬場勤行を配信・他にも紙芝居やアニメ、
読経を上げています。QRから

*お彼岸の家庭参りは、別項を参
照の上、同封ハガキにて返送を

十九（水） 日没礼賛 お勤め
二十（木） 初夜礼賛 法話
二十一（金） 中夜礼賛 若住職
二十二（土） 三島さん 住職

・はじめてのヨガ
毎週火曜日 十三時～ 每回千円
ヨガマット持参 予約不要

・みんなの寺カフェ



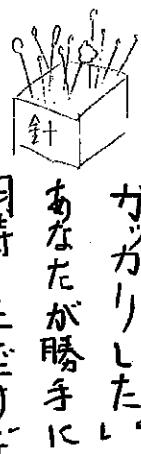
・探しています！四月三十日振込の方！

昨年 四月三十日に、国分寺台西郵便局にて振り込まれた方で、氏名が無記名の方がおられました。記名の方は既に受領証をお届けしています。未到着の方は連絡を下さい



供養

この冬、千葉県を中心
に鳥インフルエンザが流行り、何万羽と



あなたが勝手に
ガツガツした。
期待してただけだ。

言われる鶏が殺処分されました。このような動物のいのちを生業とする場にはよく、供養塔が建てられています。この時の供養は、いのちに対する慰みの意が強く反映されています。人形供養、針供養というのもあります。これは、今まで大切に使っていた物への御礼の意が強く反映されています。

今回紹介の「供養」は日本独自に展開したものが多く、多様化しつつあります。今どきはスマホ供養もあるほどです。

では、元々の供養の意味はなんでしょうか。古代インド語では尊敬し、もてなしをするという意味の「Prajya」が原語です。これが漢字に意味で変換され、進供養となり、尊敬をする人にお供えをし、養うという意味になりました。

初期の仏教では、在の方々が、食物や衣服、休む場所や薬品などを供養していました。この供養を受けたるのにふさわしい人を阿羅漢といい、聖者として尊敬されます。

身近な仏教用語を紹介します。

こんなところに 仏教用語

苦楽

苦もあるさー
人生樂ありや



もはや30歳以下の人は

には伝わりにくい歌となりました。この歌詞が何故水戸黄門のテーマ曲に使われていたのかご存じでしょうか。水戸黄門のモデルとなつた徳川光圀が子孫に残した訓示『徳川光圀卿九ヶ条禁書』があります。この中に「苦は樂の種、樂は苦の種と知るべし」とあるのです。苦は樂の種だから、苦労の道を選ばうという意です。

この言葉をもう少し仏教に寄せて味わうと、苦の種が樂の実となつたとしても、油断するとそれはまた苦の種になるということです。

年明けからフジテレビが大変なことになつています。副社長が原因について発言をしていました。八〇年代九〇年代の業界トップの座に君臨していたことからの傲慢さが現在の結果を招いたと。まさに樂が苦の種となつたのです。

仏教の樂の極みに極樂があります。阿弥陀仏の極樂淨土の事

です。極樂の名の由来は、あらゆる苦がないから極樂というのです。娑婆の苦樂の連鎖を超えた世界です。

聖衆無量・宝樹 『大經』三十四

前回の後半から引き続き十四願成就が続きます。深く立ち入りませんが『淨土論註』にもこの願の声聞衆を問題にした問答があります。

声聞衆とは仏の教えを聞いて自分の様や世の中の在り方を覚った阿羅漢と言われる人々のことです。阿羅漢とは「供養に値する人」という意味で和讃の初めに「大應供に帰命せよ」とあります。大乗では悟りを開いて一人喜んでいる人を指しますが、釈迦の弟子たちである最初の五比丘や舍利弗目連等も遊行に出て人々の為に釈迦の教えを広めています。初期の仏教教団では自らが教えを請い磨き人々に語るという自利利他の順です。大乗の菩薩は最初に利他的宣言をし、そのために自分を磨き、利他自利利他で円満となるのです。声聞衆は釈迦を目指しても同等に成ろうとはしません。それぞれ個性があるからです。後の人々はこの世で釈迦が三十五歳で悟りを開いたとはどうしても考えられなかつたので、上座部では釈迦の前生譚ジャーダカという物語を作つたのです。その中で前生の釈迦は菩薩として描かれます。そこに着眼した人々がこの世でなくとも将来仏に成るような菩薩の道を歩もうと考えたのです。それが大衆部と言われる人々です。釈迦の死

後百年後あたりに上座部の人々は遊行を止めひたすら研究に没頭する学者になり果てたことを大衆部の人々が非難し、声聞衆を卑下するようになるのです。

しかし全ては人の話を聞くところから始まるのです。父

母の言葉、先生の、先人の、仲間の、仏の・・・色々な言葉を聞くところから人生を生きていくのです。ジャータ力では釈迦の前身である菩薩が然灯仏の話を聞いて覚りへの修行を始めるのです。聞く訊ねる学ぶと言う事は全ての人に言える事です。つまり声聞衆が居なければ菩薩も居ないので。仏の教えを聞く声聞衆がこれからも人類がある限り続き、その中から菩薩衆も生まれてくるのです。そしてその菩薩衆から多くの仏が生まれるので。その数は大海の水の如く知ることは出来ないと結んでいます。この箇所は十七願成就を補則し十八願成就の「聞其名号」へと我々を誘つていて感じられます。

この後淨土の莊嚴を宝樹で語られますが、親鸞聖人はあまり関心を示していません。ただこの部分の最後に「清風時に發^{おこ}こりて五の音聲^{宮商角徵羽}を出だす。微妙にして宮商自然にあい和す」の処を「清風宝樹をふくときは いつつの音聲^{音階}いだしつつ 宮商和して自然なり 清淨薰^{阿弥陀如來}を礼すべし」と和讃にしています。宮商とは五の音聲の略です

若住職が仏教伝道協会で法話をしました。



仏教伝道協会様よりインターネットでの法話の機会をいただきました。
私が紙芝居を通して仏教の言葉を伝えているという事で白羽の矢が立ったそうです。
「仏教伝道協会 週刊法話ステーション」で検索していただくな、上の QR コードよりご覧ください。

西光寺チャンネル

西光寺チャンネル	西光寺チャンネルと検索するか、QRコードでお入りください。	
仏教紙芝居 「仏説みみず経」	お釈迦様が干からびたミミズと出会うが・・・・。字幕英訳付	
準新作！仏教ドット絵劇場 「逆襲の長生」	昔々のインドの復讐劇。怒りや恨みに仏教はどう説くのか。	
節談説教 「熊谷直実御一代記 一出家の段一」	一の谷の戦いで我が子ほどの平敦盛を討ち取った熊谷直実が、法然聖人の元に向かう・・・。	
新作！ お家で読もうシリーズ	葬場勤行追加！ 浄土真宗で読まれる勤行を経文・ひらがな・意訳・作法付きで配信	



みんなの寺カフェ

三ツ沢グッチの 昭和遊び体験



&
**西光寺名物
ピザ焼き体験**

3/30

(日)

10:00
~12:30



会費:大人500円 子ども(18歳未満)無料

予約制:3/29締切 *昼食付

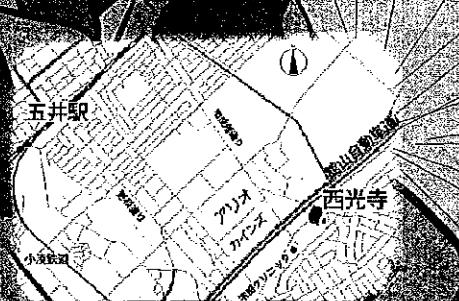
場所:西光寺(市原市根田723-1)

連絡先:0436-22-7412 or 公式ライン

主催:みんなの寺カフェ

共催:西光寺

みんなの寺カフェとは、
子どもも大人も
誰もが集まる居場所です。



冷え込んだ朝、北風が強く吹いて霜も降りていない。白んだ南東の空に半月が浮かんでいる。その下にハクモクレンが枯れ枝を喘ぐように伸ばしている。例年なら花芽が膨らみ、その殻を脱ぎ落している頃だ。だが今年はもう咲かない。長く続いた昨夏の酷暑で、秋を待たずに葉を落としてしまった。その後花芽を付けることもなく、僅かに葉の芽らしきものを幾つか見せはするものの、枯れてしまつたんだなと思つてしまうことになつていて。

本堂の玄関わきにずっとあり、毎年少しずつ大きくなつてきたハクモクレン。平成十四・五年、本堂建築の際に、邪魔だから切つてしまおうという話になりかけたところを、残しておこうと住職・役員一同で決めて、建築士や大工さんにお願いして残したハクモクレンだ。当初、この木はコブシだと、恵信尼さま（親鸞聖人の妻）が好きだった木だと頑なに信じ込んでいたのだが、やつぱりハクモクレンだよなあ、と落ち着いた。

それから毎年、三月の初めには白い花を咲かせ、夏には木陰を作り、少し大きくなると下の方で伸びた小枝が、駐車場から石積みの階段を上つてくる人の手すり代わりとなつて助けてくれた木だ。それが枯れてしまつた。酷暑が長かつたせいだけではないだろう。

切つちまえ！ 昨夏、大きな声で、まだいくらか青い葉を残すハクモクレンの下で暴言を吐いたのはこの私だ。ハクモクレンからすれば、愛想も小曾も尽き果てた、縁切つた。としか思えなくなるようなことだつた。それからみるみる枯れて行つた。後悔先に立たず、身に染みた。

三月四月、葉を出してくれるかどうか、祈るような気持ちでいる。そして何度こういうことを繰り返してきたか自分自身の愚かさにあきれ果てる。で、これが良くなる目途が立たない。ナンマンダブナマンダブ

四月の行事

- ・二日 勉強会
- ・十一日 写経会
- ・十二日 はじめの一歩
- ・十三日 草取り
- ・十九日 寺カフェ
- ・二十七日 日曜法座・総会
- ・ヨガ 毎週火曜
- ・お朝事 每朝

発行

淨土真宗本願寺派(西)

西光寺

〒二九〇一〇〇二四

千葉県市原市根田

七二三一一

TEL : 0436-22-7412

FAX : 0436-24-1652

HP : <https://www.saikohji.net>

MAIL : saikohji@saikohji.net

